第 193 回山梨大学医学会例会

日時：令和 4 年 1 月 12 日（水）午後 4 時 10 分～ 5 時 10 分
会場：管理棟 3 階大会議室

教授就任講演

泌尿器科学への思い：現在から覗き見る泌尿器科領域の未来像

三井　貴彦
山梨大学医学部泌尿器科

司会　平田　修司教授

【要旨】

私が泌尿器科学を専攻し，30 年近く経とうとしています。泌尿器科領域における内視鏡外科の歴史は古く，1877 年の Nitze による膀胱鏡の開発に始まります。私が研修を始めた当時はこの膀胱鏡を用いた経尿道的手術と開放手術が主流でしたが，腹腔鏡手術を経てロボット支援手術へと発展してきました。現在では悪性腫瘍を含む泌尿器科手術において重要な治療法の一つです。泌尿器科領域における未来像を想像してみると，外科治療を安全に行うためにも術者の教育，遠隔操作への発展，人工知能を利用した手術機器の開発などが課題として挙げられます。今後も地域にこのような最先端の技術を還元できるようにしたいと考えています。その一方で，泌尿器科領域において下部尿路の機能的な再建術は重要な位置を占めることから，特に小児における先天性腎尿路疾患に対する形成手術は少子化に伴い，ますます専門化が進んでくると考えられます。このように山梨県における砦となるような専門的な医療を行いたいと考えています。

研究面に目を向けてみると，自律神経と体性神経が混在する下部尿路機能の分野において，超高齢社会に突入した本邦では，人生 100 年時代を迎える近未来に向けて多くのことに取り組む必要があります。年齢とともに有病率が増加する過活動膀胱などの下部尿路症状では，行動療法や薬物療法などの治療に難渋するケースも少なくないことから，新規治療薬の開発が期待されています。そのため，近未来に向けて新しいアイディアをもとに優れた基礎研究を行い，その結果を臨床の現場につなげる translational research を行っていく必要があります。山梨大学発の診断バイオマーカーや治療薬の開発に携われたらと考えています。

このように，現在から覗き見る泌尿器科領域の未来像を想像しながら，それを目標として次世代につながる泌尿器科学の発展に寄与していきたいと考えています。